

Q. 3 1 単位時間の指導過程を工夫したいと思っています。ポイントを教えてください。

A. 学習指導過程は、児童生徒と教師、教材の三者が相互にかかわり合いながら動いていく授業の流れです。子どもたちが『わかる・できる』ように、指導過程やその具体の方法を工夫していくことが大切です。その際は、児童生徒の学習活動（学ぶこと）と教師の教授活動（教えること）のバランスを図り、教師の一方的な授業や子どもたちに任せっきりの授業にならないようにします。また、その時間で子どもに付ける力や学習のねらいを明確にして、導入・展開・終末の各段階を設けて、1 単位時間の授業を組み立てていきます。組み立てた指導過程を学習指導案に表すとよいでしょう。【Q. 5 参照】

○導入で学習課題をつかませる

学習することの必要性を感じられるようにし、わかっていないことをはっきりさせたり、予想を立てさせたりして、意欲付けを図るのが導入段階です。

そのためにはまず、本時のねらいに迫るための学習課題を教師が設定し、子どもたちに把握させていきます。教師が設定した課題が子ども自身の課題になることで、子どもたちの主体的な学習活動へつながるようにするのです。また、子どもたちの実態をとらえ、教材研究を深めることも必要です。【Q. 4 参照】

他に導入段階で、課題解決への見通しをもたせたり、学習の計画を立てさせたりすることがあります。



○展開で課題を解決させる

本時の中心となる段階です。考えを練り上げさせたり、新しい内容に出合わせたりしながら、課題を解決させていきます。

課題を解決し、「わかった!」「できた!」という自己解決の体験や成功感を味わわせるために、子どもの学習活動場面を計画します。その際、子どもたちに活動させることが目的にならないように気を付け、本時のねらいに迫るための学習活動を計画することが大切です。学習活動の例として、次のようなものがあります。

・見る活動	・きく活動	・書く活動	・話し合う活動
・動く活動	・つくる活動	・考える活動	・発表する活動
			……

事前に、子どもたちのつまづきを予想し、その対応を計画しておくことも大切なことです。また、子どもの誤答を取り上げ、新たな学習課題として展開させていくような工夫も考えられます。

本時における評価計画を立て、個に応じた指導や支援を行うようにします。

○終末で学習を定着・発展させる

終末は、その時間の学習を整理したり、学習したことを定着させたりする段階です。類似した問題や発展課題等に挑戦させたり、ノートまとめや自己評価など、学習の振り返りをさせたりします。家庭学習や次時の学習への橋渡しを行います。

授業が終わったら、よかった点やうまくいかなかったことを記録するなどして、次の授業構想の参考にしましょう。日々の実践が基本になります。